

セトミノカサゴ、東京湾奥で採捕

令和3年6月22日、羽田沖浅場で実施した貝桁網調査（水深5m前後）で、セトミノカサゴが1個体採捕されました。本種は主にインド洋・西部太平洋の温かい海にすんでいて、日本では相模湾以南の水深40～300mの砂泥地に見られます。東京湾では、神奈川県三浦や千葉県館山湾などで採捕された標本が博物館にありますが、東京湾奥では初記録のようです。

セトミノカサゴは海底でじっとしていることが多く、時には砂に潜って餌となる小動物を待ち伏せることがあるので、貝桁網で採捕されたと考えられます。

標本写真は鰭の膜が失われていますが、生時は背鰭、胸鰭が大きく派手で、とくに扇状に広げた胸鰭はとても目立ちます。近縁のハナミノカサゴは水族館でよく展示されていますが、両種とも鰭の棘には毒があり、不用意に近づくと危険です。

温暖化の影響かどうかはわかりませんが、当協会の調査にまた南方種の採捕記録が1つ増えました。



近縁のハナミノカサゴ

採捕されたセトミノカサゴ *Parapterois heterura* (Bleeker, 1856)

近縁の他種と違い、尾鰭後端が丸くなく上下端の鰭条が長く伸びるのが特徴。